

協会事業

光関連団体国際会議 (IOA)

光関連団体の国際連携組織である IOA (International Optoelectronics Association) の 2017 年の年会在、1 月 28 日～29 日、OIDA (米) 主催でサンフランシスコにおいて開催された。これに当協会から小谷専務理事他 1 名が参加したので、以下に概要を報告する。

IOA は 1996 年に当協会がホストとなり ICOIA (International Coalition of Optoelectronic Industry Associations) として始まり、9 年前から IOA と名称を変えて、年会は今年で通算 22 回を数える。メンバー数は発足時には 4 団体であったが、現在は、図 1 に示す 9 団体となっている。

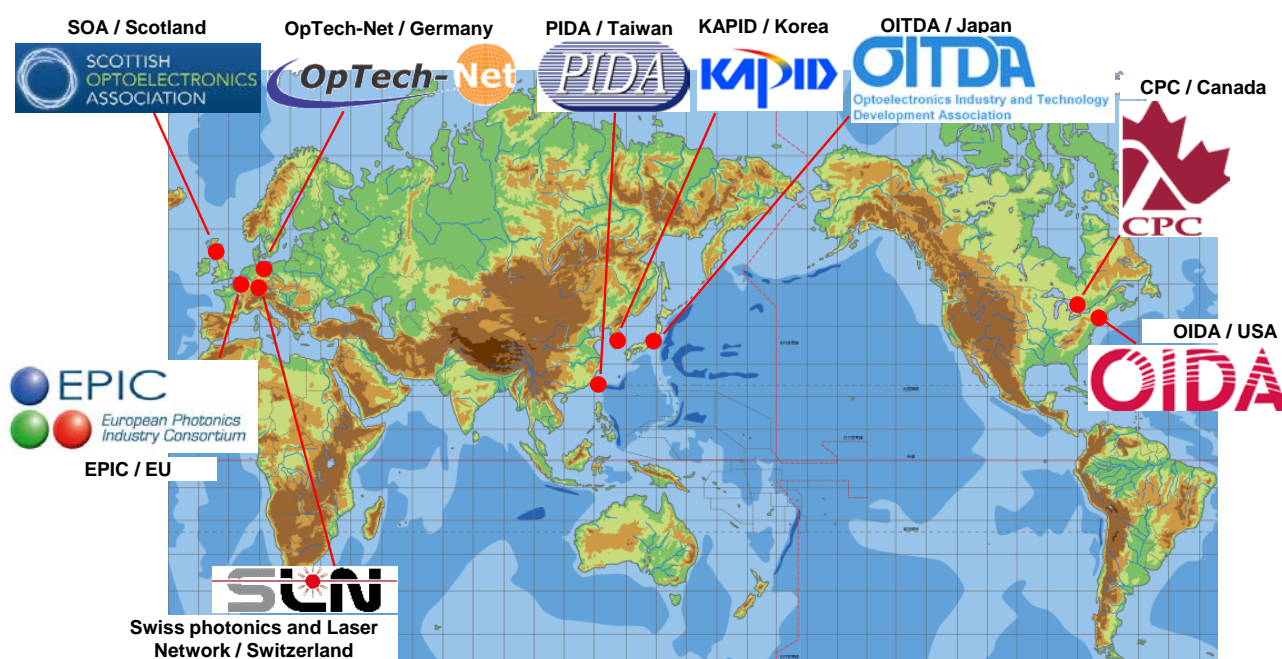


図 1 IOA 参加組織 (2016 年度末現在)

今回の年会は、Photonics West 2017 に合わせて開催され、参加者は、IOA メンバーである OIDA (米)、EPIC (欧)、OpTechNet (独)、Swiss photonics (スイス)、CPC (加)、KAPID (韓)、OITDA (日) の 7 개국/地域 12 名の他、オブザーバとして、CNOP (仏)、UK Photonics Leadership Group (英)、PPTF (ポーランド) の 3 개국 5 名が参加した。また、メンバーの PIDA (台) は、今回、旧正月と重なったため会議には出席できなかったが、台湾の産業動向をまとめた資料を送ってきており、資料での参加となった。

会議は、会場となった Palace Hotel 内の会議室において、これら 10 개국/地域の参加者から「各国/地域の光産業動向と昨年の活動」、「各国/地域の技術ロードマップと技術開発の動向」を中心に報告があり、活発な議論が行われた。当協会からは、2015 年度の光産業動向調査結果と活動の概要について報告するとともに、2015 年度の技術戦略策定活動で作成した「光加工・計測」に関する技術ロードマップについて概説した。また、超低消費電力型光エレクトロニクス実装システム技術開発に関する国家プロジェクトの概要と進捗についても紹介した。

各国の主要な報告を、以下に概説する。

OIDA からは、米国経済と世界の光産業の動向に関する調査結果について報告があった。米国経済は緩やかだが安定した成長軌道にあり、世界の光産業も製品・技術分野による差があるものの全体としては安定した状況にあること（図2、図3）、また、このような中、新たな展開を求めて、M&A が活発化していることが紹介された。

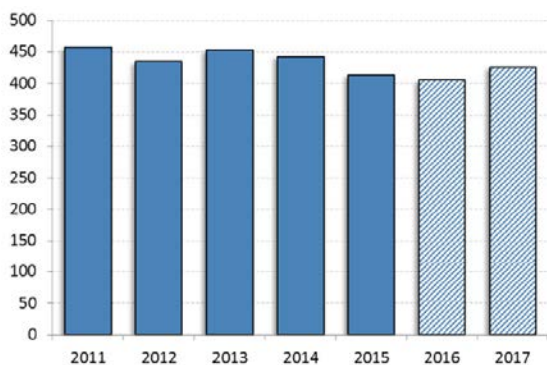


図2 世界の光産業の生産額 (単位: US\$)
(OIDA 発表資料より抜粋)

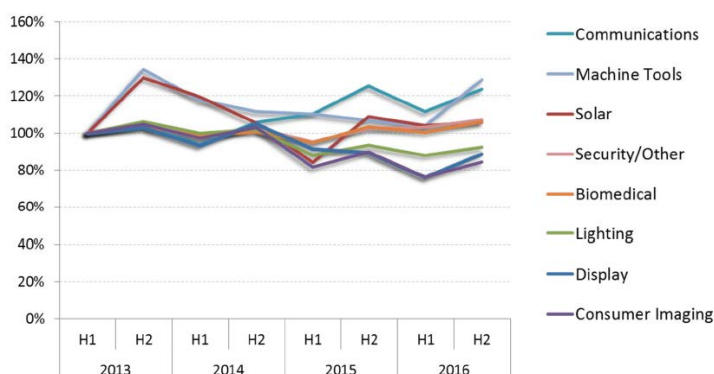


図3 世界の光産業生産額の分野別推移
(OIDA 発表資料より抜粋)

また、OpTechNet からは、ドイツの光産業の収入が順調に伸長しており 2015 年度は前年比で 7.1%増（輸出：9.0%増）との報告（図4）があった。一方、PIDA からは、2015 年度の台湾の光産業生産額が前年比で 13%減、2016 年度は 12%減になるとの資料（図5）が示された。

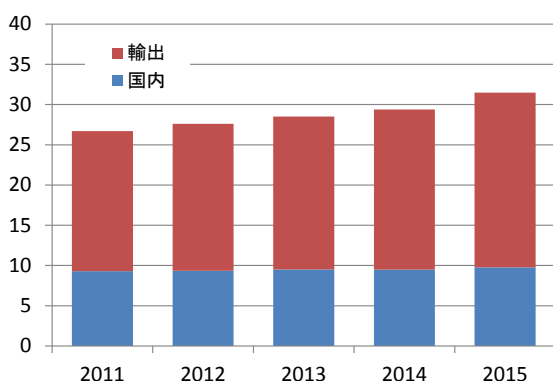


図4 ドイツの光産業の収入推移 (単位: B€)
(OpTechNet データより当協会でごグラフ化)

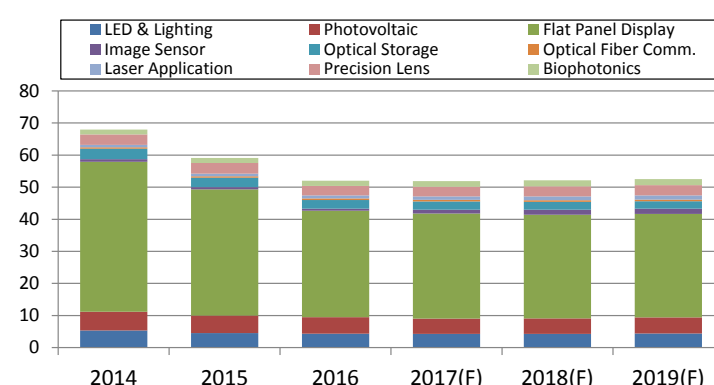


図5 台湾の光産業生産額の分野別推移 (単位: US\$)
(PIDA データより当協会でごグラフ化)

各国で集計方法や集計対象、製品分野の定義が異なるため、一概に比較できないが、中心となる製品や経済動向によって好不調の差が顕著になっているものと思われる。

このような中、光産業において新しいイノベーションを創出していくために技術ロードマップの重要性が各国で認識されており、OIDA からは、光インターコネクト、バイオフォトンクス等に関する技術ロードマップの作成例が紹介された。また、EPIC からは、開発と事業化の間の「死の谷」を克服する対策として EU が実施している Pilot Line Project の紹介があった他、外部の調査会社を活用して作成したシリコンフォトンクス、非冷却赤外線イメージング、MOS 型画像センサ、光技術の自動車応用、紫外線 LED に関する技術ロードマップについても概要が紹介された。

最後に、次回年会を、2018 年 10 月に KAPID 主催により韓国で開催することが合意され、閉会した。